

ニッポン名城 技めぐり

城から学べる
“Construction”

Vol. 08

豊臣政権時代

徳川政権時代(慶長年間)

徳川政権時代(元和年間以降)※

幕末

「一国一城令」により城造りが制限され、城の機能は軍事目的から大名のステータスを示すものへと変化

江戸城

所在地 東京都千代田区

築城年 1603(慶長8)年改修開始

築城主 太田資長(道灌)

主な改修者 徳川家康・秀忠・家光

保存状態 家光が建てた寛永度天守は1657年の明暦の大火で焼失、その後は天守台のみが再建された。櫓・門・石垣・堀などが現存。

財政難で再建されなかった日本史上最大の「巨大天守」

室町時代の1457年、扇谷上杉家の家臣だった太田資長(道灌)が築いた平山城が江戸城の端緒とされている。その後、三河遠江から関東に転封した徳川家康の居城となり、1603年頃から拡張に着手。秀忠・家光と三代にわたる公儀普請によって日本史上最大規模の巨大城郭が建設された。残された天守の図面によれば、1階面積約1304.5㎡、天守台を含めた高さ約58.6m、現存すれば世界最大級の木造建築物だったと見られる。火災で焼け落ちた後、幕府の財政と町の被災状況に鑑みて、天守の再建は見送られたまま現在にいたっている。



現存する門の一つ「外桜田門」(重要文化財)。1860年、江戸幕府大老の井伊直弼が暗殺された事件「桜田門外の変」で知られる

続きは動画をチェック!



日本の建築史を専門とする広島大学名誉教授・三浦正幸教授の解説動画をこちらからご覧いただけます。

三浦正幸教授…東京大学工学部建築学科卒。建築学者、工学博士、一級建築士。NHK大河ドラマの建築考証担当、城郭や社寺建築に関する著書多数。

